小須戸公民館報

発行所 小須戸町 中央公民館
発行人 成田常信
発行日 毎月15日
印刷所 ㈲昭栄堂印刷所

昭和62年度の 中央公民館の方針

中央公民館長 成田常信

春とはいえ、時々くりかえしてくる寒気のため、暖さのおとずれもおくれがちでしたが、やっとこの頃北国にも春がやって来たかなあという様子になってまいりました。

常日頃町民の皆様方からは公民館活動について、格別のご支援をいただいており厚くお礼を申し上げます。

さて、これからの公民館は生涯教育の中心的役割を果すことであるといわれております。

新潟県の生涯教育推進基本構想の中で、特に次のように述べております。

まず、学習は青少年期のみに限定されるのでなく、生涯にわたってそれ〴〵の時期において必要な課題解決や自己充実のために、自発的意志に基づき行われるべきであり、更につづけてその学習機会が全体としてうまく整備されていなければならないと説明されております。（以下略）

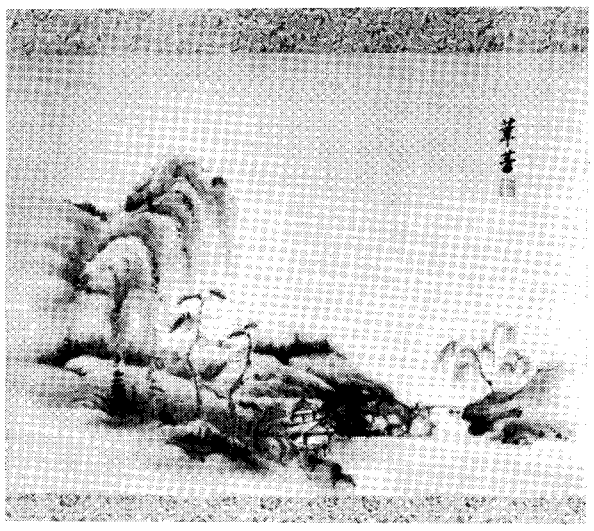
このような考え方で本公民館も今年度の事業及活動計画を立案いたしました。

設備、費用、職員組織に限りある現在であれば、町民の皆様の厚い御理解と御協力あってこそ成果のあがるものであると考え一層の御援助をお願いいたす次第です。

特に今年度は「小須戸町史を読む会」という教室を計画いたしました。これは町民の方々から、小須戸町の歴史を理解していただき、その上で我が郷土小須戸町のこれからのあり方、発展はどうあるべきかを語っていただきたく、計画いたした次第です。

その他俳句初心者教室等も加えて以下今年の計画を重点的にお知らせいたします。

くりかえし町民の皆様の御協力を切にお願いいたします。



「山水」 水墨画クラブ 森田芳江（若葉町1）

●新たに町史を読む会

初心者俳句教室を開設

◆小須戸町史を読む会

私達の郷土、小須戸町を学習し、幅広い知識を身につけましょう。講座は四月から来年二月までの計十回。原始、古代の小須戸地方などや、産業経済の発展などです。内容は小須戸町史をテキストとして学習します。

講師 木村宗文先生

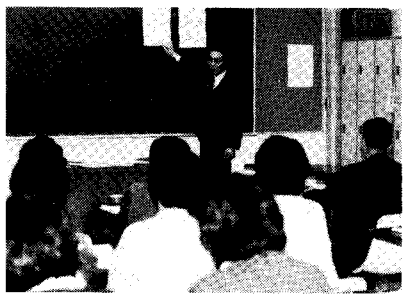
◆初心者俳句教室

初心者の皆様を対象とし、俳句の作り方、俳句の味わいなどを学びます。講座は五月より来年一月までの計六回。

講師 松本雨生先生 問野良知先生

◆成人大学講座・古典の会

古典「平家物語」を学習し、幅広い知識を身につけましょう。講座は四月から来年三月までの計十二回です。新たに講師先生に、新津南高教諭、小林均先生をお迎えします。お気軽にご参加下さい。



◆文化祭・芸能祭

恒例の文化祭は、町民展をはじめ、各サークル、グループの参加で今年度も実施します。

第三回芸能祭も、各団体の協力を得ながら実施します。

●その他の事業として

・古典講座・婦人学級・第四回文化講演会・定期映写会・図書活動（移動文庫）・第五回婦人研修会・16ミリ映写機操作認定講習会・公民館報発行

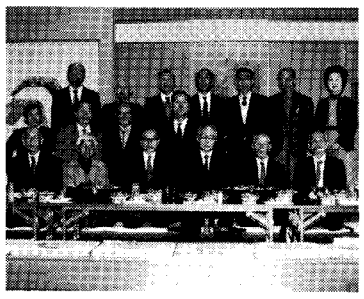
成人大学講座

古文書を読む会修了す

昭和五十九年に開設した、中央公民館主催の古文書講座が、開設以来三年を経過した、去る三月二十八日に修了式を行ないました。

古文書を通して真の歴史を学び、会員相互の融和をはかりながら楽しいひとときを過ごし、合わせて、生活に潤いと活気、そして生きがいを見い出した講座でした。

この三年間、新津南高校々長時代より講師をお引き受けいただいた、滝沢定春先生に感謝申し上げます。尚、三年間古文書を学習し、解読したものを体系的にまとめ、一冊の本にしようと、現在、修了生が製作発行の作業に取り組んでおります。



═小須戸町植木盆栽まつり═

期日 5月2日㈯ ～ 5日㈫
会場 花木センター（ウデコキ地内）
主催 小須戸町園芸組合
尚、4日は花と緑の日です。
4日・5日は花の苗をプレゼント

教育長の交替

～ご挨拶～

就任のご挨拶

椿 克己

いかにも春めいた暖かさの後の寒さに、暖冬の後遺症のようなものを感じますが、皆様にはご健祥のことと存じます。

この度、図らずも町議会及び教育委員会の議決を頂き、教育長を拝命する仕儀と相成りました。浅学非才、力及ばざる己を顧みて事の重大さに恐縮している次第です。私は六年前まで四年間矢代田小学校に務めさせて頂き「学校は地域・地域は学校」という端的な言葉で、地域に解けこみ、学区・先生・子供が互いに心を通わせ、心を育てることを標榜して参りました。町では町長さんを先頭に「人づくり」を政策の重点の一つに据え学校教育は無論のこと、社会教育面でも公民館を中核として、地道にしかも着実に、大きな成果を挙げてこられました。先に町民憲章起草の一員に加えて頂いた経験もあり、親愛と敬意の念を禁じ得ません。今後は新卒のつもりで勉強し、関係各位のご指導を戴きながら、精一杯の努力を竭したいと思います。皆様のご支援ご協力を切にお願いし、ご挨拶といたします。

退任のご挨拶

丸山敬雄

私が小須戸町役場に就職いたしましてから三十三年、その間教育長として六年間、微力でありましたが全力を尽して勤めさせて頂きました。

その間、教育環境整備、内容充実を図って参りましたが、特に、矢代田小学校屋内体育館、プール建設、中学校々舎大規模改修、小須戸小学校全面移転改築等々。皆様がたの温かいご理解と、ご協力のたまものであると深く感謝申し上げます。

最後に小須戸町の益々の発展を、お祈りして退任のご挨拶といたします。

公民館事務職員が交替しました

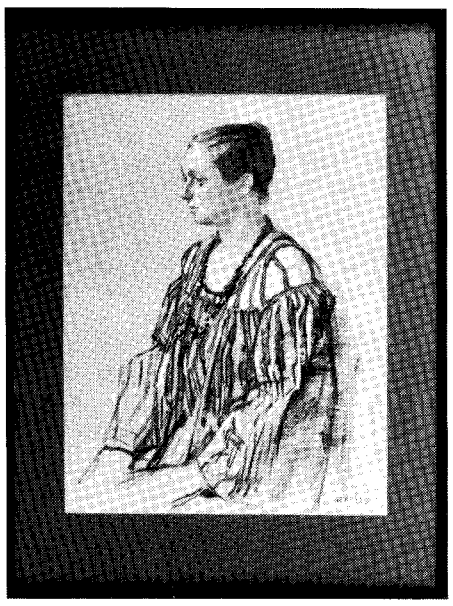
四年間の公民館での職務は、私にとって有意義な日々であり貴重な経験となりました。皆様方のご指導を受け、微力ではありましたが、ここまでやってこられたことに心より感謝いたします。誠にありがとうございました。新しい職務につきましても、一生懸命にがんばります。

知野 利和

四月一日より、中央公民館へ勤務することになりました。何分にも若輩ものですので、ご迷惑をおかけすることが多くあると思いますが、皆さんのご指導ご協力のもとで、公民館活動をおし進めて行きたいと思います。どうぞ、よろしくお願いいたします。

家塚 俊晴

小磯良平 婦人像（パステル画） 寄贈御礼



公民館にお立寄りの際、ぜひ一階相談室に入って見て下さい。小磯良平（一水会）の〝婦人像〟（パステル画・レリーフ）が飾ってあります。これは川柳教室講師の夏井立也先生（五泉市）から寄贈いただいた絵です。きっと皆様の目を和ませてくれるかと思います。

ありがとうございました。

4月19日㈰ 午後2時より KRC主催 カラオケまつり開催 入場無料 会場 公民館3階ホール

第四回婦人研修会 多数の参加者で盛会裡に終了

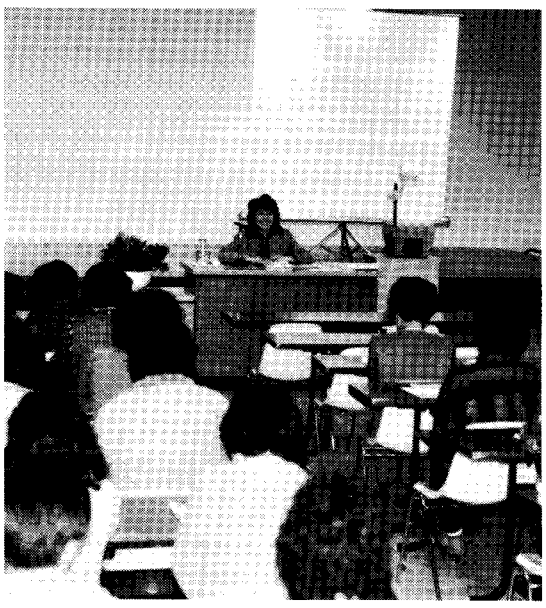
去る三月十六日(月)に中央公民館で開催された婦人研修会には新潟に婦人センターを作る会会長の古橋エツ子先生を、お迎えし、「地域は、家族は、私は」という演題で講演して頂きました。講演終了後は参加者約五十名の方々と懇談し、「女の目」、「女の側」から、地域、家庭、私を見直してみる事について活発な意見が出され、盛会のうちに終了しました。

参加者の声

婦人研修会に参加して

連合婦人会長　板井　悦

この研修会が開催されると知った時、私は明るい何かが未来に展望する研修会になるのではないかという予感が致しました。古橋先生は、現在の実態と二十一世紀に向けての展望をお話し下さいました。男性女性それなりの特性に基き、立場を考え協力し合って封建的な考え方から脱皮し、時代と共に人と人とのふれ合いを大切に人間味あふれる地域社会を作って行かねばならないと痛感した次第でございます。我が町にも是非、婦人コミュニティーセンターを設立し、町全体の婦人が新しい連帯組織を作り、婦人の活動によって活力ある町作りを目指して行かねばならないと思います。



女の位置

商工会婦人部部長　高橋　キヨ

家庭は、夫と妻、親と子と、縦と横のつながりで形成されて繁栄して行くものである。女一人、仕事の合間に子を育て、親の面倒を見てきた人生であっても、夫と妻の領域に境界はなくそれぞれの立場で協力が必要である事を痛切に感じたものである。妻の労働の比重は大きく、自営にしろ、共働きにしろ、夫は自分でできる事は、てれとか見栄は除外し、妻への協力は必要であり、妻も又、夫への思いやりを忘れてはならないと思う。根本は、相互の理解が大切であり、それが愛情の表われでもあると思っている。有意義な婦人研修会であったことに、心より感謝いたします。

婦人研修会に参加して

小須戸分館婦人学級長　皆川イミ子

古橋エツ子先生を迎えての講演「地域は、家族は、私は」は、多彩な資料を用いての、大変分り易く、又私共婦人にとって興味深い内容のものでありました。

「女の目で女の側から、地域を、家庭を、私をみつめる」と言う観点から「地域活動の父母の参加状況について」又「家庭における夫の家事協力度」そして「子供に対して期待するもの」等、身近な問題に着目しての、各種アンケート調査の結果は改めて、母親である私達に目を向けさせるものがありました。

その中でも大変面白かったのは「家庭における夫の家事協力度」の度合は、二十代と五十代では倍近い開きがあると言う事に年代のギャップを感じさせられ、思わず苦笑させられる場面もありました。

催しものご案内

定期映写会ご案内

暖房器具を片付ける季節となりました。散歩がてらにどうぞ

期日　四月二十二日(水)

午後七時三十分より九時まで

会場　中央公民館二階視聴覚室

映画内容　彦一とんち話、ライト兄弟物語、森の王者　外

春期初心者社交ダンス教室開催

社交ダンスで生活に潤いと活気を。気軽にご参加下さい。

尚、原則として御同伴でお申込み下さい。

開催日　五月十二日(火)より七月十四日(火)まで（毎週火曜）

開催数　十回

会場　中央公民館三階ホール

受講料　一人二千円（資料代）

講師　前社体指導員　森田　登

アシスタント　クラブ指導者

申込先　中央公民館

申込〆切　五月九日(土)

主催　社交ダンスクラブ

図書だより

一般図書

◇極道の妻たち　家田　荘子
◇青き犠牲　連城三紀彦
◇離婚しない女　〃
◇脳死　立花　隆
◇ロシアについて　司馬遼太郎
◇フグと低気圧　椎名　誠
◇旅の終りに　五木　寛之
◇三人オバン　川口松太郎
◇塀の中の懲りない面々　安部　譲二
◇湿原（上・下）　加賀　乙彦
◇原子炉爆発　豊田　行二
◇源頼朝（上・下）　咲村　観
◇駅　森村　誠一
◇漢字漫言　遠藤　哲夫
◇戦火の昭和史　三好　徹
◇ドキュメント昭和（八・九巻）
◇釣りと魚大百科　外二十五冊

寄贈御礼

次の方々より中央公民館図書室へ図書をご寄贈頂きました。大変ありがとうございました。

中川四四三様（松ヶ丘）　星靖之様（中央町二）　加藤国一郎様（新潟市）　川田睦様（ハワイ）

柔剣道振興会だより

昇段おめでとう（剣道）

二段　渡辺唯男　鈴木洋子
柏　住子　市川裕美子
柏ルミ子　渡辺　愛
初段　布川恵美　近藤純一

第32回県下柔剣道大会

3・21　於白根市

○剣道の部（中学女子の部）女二位　小須戸中学校

○剣道の部（一般男子）三位　小須戸柔剣道振興会

○柔道の部　三位　小須戸柔道クラブ

分館だより

矢代田分館婦人学級 小須戸分館婦人学級 横水分館婦人学級 開設のご案内

婦人を取りまく社会情況の変化に伴い、自己の生活範囲を広げ、暮らしにアクセントを与え豊かな日常生活を築くために、今年度も、小須戸分館、横水分館で婦人学級を開設いたします。そして、今年度より、新たに矢代田分館で、婦人学級を開設いたします。ぜひおさそい合わせのうえ、ご参加下さい。

尚、後程、学習プログラム、申込み用紙等をお送りいたします。

主催　各分館

後援　中央公民館

横水分館

○水田老人部・映画教室

日時　四月二十四日（金）午後一時三十分より

会場　水田集落センター

○横水分館運営審議員会

日時　四月十六日（木）午後七時三十分

会場　小向集落センター

議題　一、昭和六十二年度事業計画及び予算案審議　二、明るい地域づくり等について　三、その他

中央公民館よりお知らせ 休館日が変更になりました

◇四月一日より、中央公民館の休館日が左記のとおり変更されましたのでお知らせいたします。

記

休館日　毎週木曜日・祝祭日

夜間休館日　毎週日曜日、毎週木曜日・祝祭日

◇公民館及び図書室は、土曜日、日曜日、午後五時まで御利用できます。

◇今年度も公民館図書室の夜間開放を実施いたします。ぜひ御利用下さい。

図書室夜間開放日は毎週水曜日の午後七時より九時までです。

◇今年度より公民館図書の貸出冊数を、一般のみ一週間で二冊貸りることができるようになりました。御利用下さい。

4月は春の環境美化運動月間

4月19日(日)

空きカンゼロ作戦

小雨決行、雨天の場合は5月5日(日)

川柳教室作品

題「鏡」

あの人の真心写して三面鏡　武雄
JR駅の鏡もよく磨き　良平
横向けば鏡はみ出す大鼓腹　清作
女とは鏡の前でも嘘をつき　利和
ありありと顔に出ていて鏡無視　常信
苛立ちをミラーが諭すラッシュどき　米二
店先の鏡横目に通り過ぎ　キヨ
齢のサバ鏡は正直騙せない　キン
姿見の妻惚れ惚れと出来上り　幸世
鏡から見ている夫のへそくり場　タネ
手鏡の皺の深さをのぞく孫　キヨノ
大ぜいの姿見となるガラス窓　春江
子は親の鏡で世代に乗り遅れ　信子
デパートの鏡の前でひざ伸し　志枝
手鏡に女の過去がすけて見え　みな

中学生文芸

はるかなる山の頂雪残る　阿部　千春
草の芽のやっと出てきた土堤の端　佐藤由里子
寝転べばふと草の芽の柔らかさ　風間　智美
春休み休む暇ない部活動　古川久美子
バレンタイン相手のいない義理のチョコ　小林　陽子
グランドの草の芽一面晴れた朝　平田　和之
お彼岸にお墓の前で手を合わす　小林美和子
外に出れば春の日差しの暖かさ　轡田　仁子
休日に田んぼの中に芹を見る　高橋さおり
雪解けて嵩増す川の水の音　川瀬とも子
慌ただし進級をして奈良へ行く　井上ひろみ
土堤端に膨み初む桜の芽　井本久美子
菜の花の黄色いジュータン春の色　藤原　直美

三月例会作品

小須戸町俳句同好会

犬と児の土堤駆け下りて四温かな　ミナ
軸下げる母在りて知る天神忌　野蒜
揺られ過ぐ仔豚のよろけ春の雪　久子
雪嶺にきびすめぐらす阿賀堤　素糸
川なりに街の曲りて春の雪　越楼
寒灯や辞林へ這わす虫眼鏡　良遊
家鴨住む池を狭ばめて薄氷　露春
万歩計つけて土堤道日脚伸ぶ　松山
信濃川濁りを見せて日脚伸ぶ　可津朋
春めくや研師が回る植木村　香月
節分の鬼が出をまつ巻煙草　秀穂
黄梅や床に掲げし無の一字　虚秋
雪晴れて送電線の曳っ張り合う　太浪
盆梅や酒の老舗の古硯　美根子
川風に揉みほぐされて猫柳　冨沙子

短歌

けぶりつつ雨降り初めぬ塀高き庭に木蓮はつかに匂ふ　我妻清作
馴れそめしはらからも去り吾もまた別かれを告ぐる月そものうし　伊藤照渓
御やしろの奥萬葉の道ゆけば木々の芽だちの遅速楽しも　加藤　茂